

三条教区 宗祖親鸞聖人750回御遠忌
お待ち受け法要兼三条別院報恩講
 三条教区御遠忌スロ-ガン「おめさん そろっと参ろうて ~私を新発見~」

三 条 教 区
御 遠 忌 通 信
 号外
 2010年12月1日発行
 編集
 三条教区宗祖親鸞聖人
 750回御遠忌委員会
 教化伝道部会
 発行者
 三条教区宗祖親鸞聖人
 750回御遠忌委員会委員長
 藤坂 初裕



二〇一〇年、十一月五日から八日、三条別院に於いて、三条教区 宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌 お待ち受け法要兼三条別院報恩講が厳修されました。

今回の法要は、例年の報恩講とは異なり、お待ち受け法要も兼ねていたこともあって、六日の初日中法要からは、大谷 修 御鍵役から御出仕をいただき、八日の結願日中法要には、大谷 暢顯 御門首の御出仕をいただきました。

天候に恵まれない日もあったが、連日各組からの団体参拝があり、四日間で約二〇〇〇人の同行の方がお参りいただきました。

帰 敬 式



11月8日 大谷暢顯御門首による帰敬式執行

十一月六日から八日には、帰敬式が執り行われ、五日・六日は大谷 修 御鍵役から執行していたが、八日は大谷 暢顯 御門首が執行されました。

この度の法要で、百四十四名の御門徒が帰敬式を受式され、新たに仏弟子とられました。

お 練 り ・ 採 納 式

十一月五日、三条別院報恩講冥加米・坊守会打敷・第二十組花瓶の採納式に先立ち、本寺小路から



20組青木組長より目録の贈呈

ら三条別院まで総勢30名程でお練りが行われた。当日は、小雨が降る天候の中、大勢の参加者と共に本寺小路を練り歩き、お練り終了後、三条別院本堂に於いて、採納式が執り行われた。

採納式では、御遠忌委員会教化伝道部会主査 楠 雅丸氏より三条別院報恩講冥加米の目録が、三条教区坊守会長 澤田祥子氏より打敷の目録が、第二十組組長 青木 仁氏より花瓶の目録が、それぞれ藤坂初裕三条別院輪番に贈呈された。



澤田教区坊守会長より目録の贈呈

御伝鈔・御絵伝



十一月五日・六日、速夜法要が勤められた後、御伝鈔が拝読されました。

藤坂初裕氏、親鸞聖人の三十三回忌にあたる、建仁二年(一二九四年)に親鸞聖人の曾孫である第三代・覚如上巻人が、親鸞聖人の遺徳を讃えた『報恩講私記』をあらわされました。その後、『親鸞伝絵』とは、親鸞聖人の生涯を著した伝記絵で、詞書(ことばがき)と絵とを交互に連ねた絵巻物である。この詞書の部分を『御伝鈔』、

『御絵伝』を映し出して、『御伝鈔』が拝読されました。拝読者は、上巻藤坂初裕氏(三條別院輪番)・下巻源川秀教氏(第十一組 圓滿寺住職)に拝読していただきました。



下巻を拝読する、源川秀教氏

文弥人形公演

十一月七日の御速夜法要後、佐渡市野浦地区野浦双葉座による文弥人形の公演「蓮如上人御一代記・嫁威肉付の面」が行われた。

文弥人形とは、小木の説経人形使い大崎屋松之助と沢根の文弥語り伊藤常盤一によって創られた人形芝居で、今から三百年前に京都の岡本文弥が



創始した文弥節を下地として、新穂の須田五郎左衛門が京都から持ち帰った説経語りの人形を改良したものが使われた。独特な哀愁を帯びた節まわしや時には勇ましく動きまわる人形などが、佐渡の風土に合っていたことから、

広く島民に親しまれてきた。

しかし、大正時代末期頃から後継者が減り、一時は消滅の危機を迎えたが、昭和五十二年(一九七七年)佐渡人形芝居保存後援会が設立され、国の重要無形民俗文化財に指定されました。当日は、五〇〇人の参詣者がこの力強い文弥人形を楽しんだ。

講話・法話

記念講演・記念懇親会

今回の法要では、三條教区御遠忌スローガン「おめさん そろっと参ろうて」私を新発見」をテーマに講話・法話をしていた。

五日には、作家 田口 ランディ氏、六日は元親鸞仏教センター嘱託研究員 武田 定光氏、七日には大谷中・高等学校長 真城 義曆氏、そして八日には今回の法要の記念講演として、元大谷大学学長の小川 一乘氏を講師に迎え、「念仏成仏これ真宗」を講題にお話しいただいた。

それぞれの「新発見」を聞かせていただいた。

また、7日夜には、御門主・御鍵役・真城氏・小川氏に御臨席いただき、今法要の厳修を祝して、記念懇親会が開催された。銭太鼓の方々の、素晴らしい演奏と、160名の参加者の熱気により、盛大な懇親会となった。



田口 ランディ氏



武田 定光氏



真城 義曆氏



小川 一乘氏